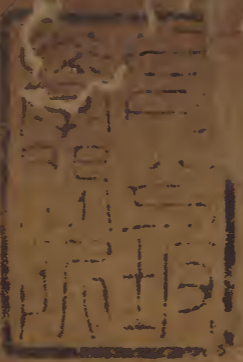


神皇正統記

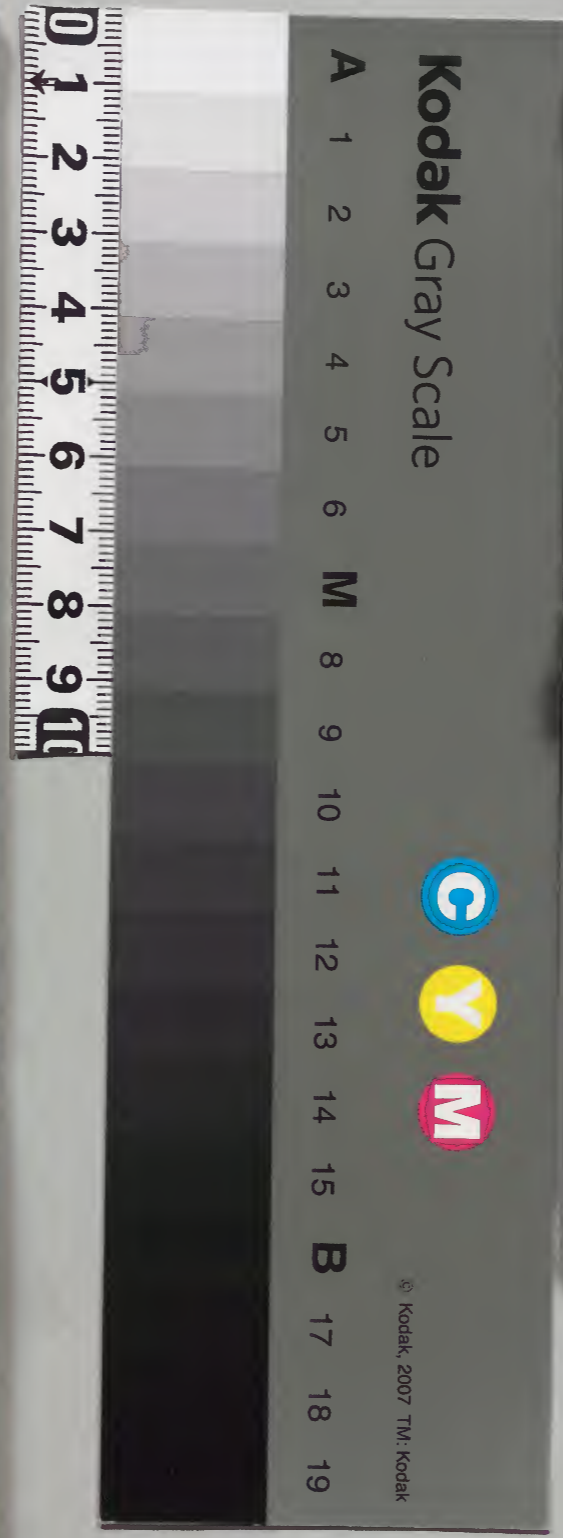


和書門			
類	號	函	架
一	二	三	四
五	二	二	二
六	三	三	三
冊	架	函	號

內閣文庫			
類	號	冊	架
一	五	二	二
二	二	一	一
三	八	三	三
冊	架	函	號

內閣文庫	
番號	和 15212
冊數	6 (6)
函號	138 72

神皇正統記



神皇正統記 卷之六

淺草文庫

第九十一代伏見院諱を熙仁後深草系尊一の子御母は去
繼院藤原惲子左大臣実雄其女なり後深草乃帝
繼孫と云海山と云はけり一はては深草系は深草系は
なからしむるやおぼく一と海山身成の儀を世に
志なるなりや此君成御孫子一と東宮より止之給
そはち海山もゆくと云はる事と云はる事
踐祚ありしより丁亥のとき即位成より段元東宮小
人此より皇乃御子なるなりひて天下に成たれは
十一年太子よりゆけりて号皇太子なるなり

神皇正統記 卷之六

一

院申あく世譲し世譲ひし程多し時うはあ
みしと申おとせむりありあつし又世譲し世譲ひ
美園東は孝もと母山の正統をうもはる事は
志め侍りし水近はと名もさく世譲しうりく
思ひ事きはまやぬ皇統御流事とらりし中
さんとおとらうひ事りとなんはりし出家せむ坊
まあむ十果おまひし

第九十二代後伏見院諱と胤仁伏見才一の子河母
永福門院友原 子入道太政大臣実徳はむとあり
実の河母を准三宮藤原乃經子入道泰後經氏の女

なり成成のし即位已まり改元と下と治めはあ
る三年推懐乃事あり号皇太子のまし
のし父乃上皇統御由はりあく世譲し世譲ひ
時承みりしと御才と名もさくは子乃とありとえ
えら世の中んてまし時又志ぶらうとせなす
事ありたまるしと名もさくは子乃とありとえ
此れせし御才のしと下九果はくかたれせむし
第九十三代後二条院諱と邦治後守多才一の子
母と西華門院源の基子内大臣具守のむとあり
幸世のし即位士寅り改元と下と治めはあ

六年あるごとく世にやぐり終り二十二年あまのしほ
 第九十代花園院又の天皇皇統名のつれを安仁伏見才三太子は
 母を顯親門院友原宗子左大臣実雄の女なり戊申
 のと一即位改元乃上皇世にせ終り一御出
 家終はるり御由はりみく御兄乃上皇志とせ
 まし御志は白うくれ終りて諡園の儀なり
 上皇御終り終りて例なれりあり天下を治
 め終りて十七年まくのつぎ終り終り終り終り
 世終り中あり終り終り終り終り終り終り
 第九十五代才三十九世及醍醐天皇諱と終り治後宗

多才二の御子は母を淡天門院友原子内大臣御終り
 此と女実を入道参議忠継乃むと女なり御祖父龜山
 後宇多世御志終り一めさ終り終り終り終り
 東方り作終り一はる命の理り終り一御終り
 杉終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り
 龜山と此終り終り終り終り終り終り終り終り終り
 幡宮り告文と終り終り終り終り終り終り終り終り
 由り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り
 二終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り
 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

の脚つもとまろく節せうぶ念ねんまのどりし物ものを給たまひひ及および中なか勢せいに御ご
 を道みちをを務つとめたるは二条世孫にじょうせそんなりと申まをして
 父ちち乃すなはち上かみ皇みかどをを給たまひひ申まをすもとら給たまひひ此こ君きみなりと
 妾めかけ附つしし中なかさ務つとめ給たまひひ言いふる座まううく儲たくら君きみのしららじめあり
 是こゝには後のち二条にじょうのし乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 加かややかりしし乃すなはち松まつ平ひらのしめとと敬うやまひととく此こ親おや皇みかど孫そん
 大おほ子こ乃すなはち平ひらのし乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 世よのし事ことありとといいははしし清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 なるなり給たまふふししくく言いふふはは親おや皇みかど孫そん乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと

やうやうくく松まつ平ひらのし乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 世よのし事ことありとといいははしし清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 加かややかりしし乃すなはち松まつ平ひらのしめとと敬うやまひととく此こ親おや皇みかど孫そん
 大おほ子こ乃すなはち平ひらのし乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 世よのし事ことありとといいははしし清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 なるなり給たまふふししくく言いふふはは親おや皇みかど孫そん乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 禪ぜん助すけ乃すなはち許もと可かままくく乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 乃すなはち唐たう朝てうももとといいははしし乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 乃すなはち慈じ覺かく大師だいし灌かん頂てうをを給たまひひ乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと
 忠ちゆう仁にん公こう乃すなはち乃すなはち清きよ子こ那なに良ら其その親おや皇みかど孫そんなりと

中世の世をなほしとの授職と成りしや
 此の許可なりはしむるも我らも事なりと又諸
 流をとりあはせ給ふ又諸事御も捨給ふと本朝
 禪門乃僧徒ましくも因りてとあはせ給ひしを
 登り和漢乃道なりかひあきなりなる御事ハ申法
 ありの代りなりとあはせましくもや戊午の
 と即位已来の夏日月は改元元應と号なりとめ
 けしとて授字の院乃御事なりとかなりしと申二
 と務けり有りてと申はりやとせ給ひしと事なりぬ
 ありありとあり記録所なりとてはとてありぬ

又杉本とのあひて民乃と事なをきとせ給ふ天下に
 可しく是はあはれなり公家此ゆゑの御政なりと
 なるの世よりとてと事なりしやしと事なりと事
 有りきなりしやしと事なりしやしと事なりしや
 此の東宮此御方よりぬ人々をせんくよめり
 が御東宮の使言とせ給ふと事なりしやしと事
 の御申よりしやしと事なりしやしと事なりしや
 なるひと事なりしやしと事なりしやしと事なりし
 なるひと事なりしやしと事なりしやしと事なりし
 事ありしやしと事なりしやしと事なりしやしと事

けりいなる事山あはしりも大方まきなりてあま
 そはかぞれく東宮かくまはれ小神意なりしうかりて
 祖皇の御いまりめあしたぐせはひのりりとぞたはれ
 志今しそせら白皇うごひちるか継孫の正統なりけり
 ましせはひのきけはきかたけりもは伏んすは御子
 量仁乃親ま居さ勢はふかくそえ弘幸末乃年八月
 又御子勢をとおはせはひあきたの方より降幸あはせ
 うまを移しりて益置とて小山寺はききより宮
 とまあ御あはれごう有はらきのをたつあはれあら
 ぶきとひく合我あきり一月九月より奉國のいひま

杉介くあひまりのわりて事うごかなるまきり
 他前よりははしめはひり思ひのあはれゆき
 六波羅とく承久のあまのまきりゆき
 なる御傍より上達於上のをたきとてあはひ
 まきりれ武まきのひくまきりもあはかく東
 宮位よりは勢はふた乃年北長陽は乃國より
 ははし先海まは御あはらとあはらるるた
 うはしははひりり共はつ護良は親まを山とてあ
 くら國ははきとて我兵とたあはらとてあは
 めくははひる河内乃國より楠の正成とてあまの

ありて御あり終る一悔るをけまはに内と大傳と
 のさうひり一合剛山とさるる城ひりまへく出陣を
 けり一むつる軍一六束らり諸國乃軍とあり
 めくせあり一どかしくやるとけまはせやとく一
 よろしつど世の中んごききめ一次の年發國を
 まあせびく御船よまりて隠岐と出く伯耆
 はせ終るも國一源長年とさ者あり御方よま
 る舟上とさ山寺にるもの宮ひきとくけりも海せなり
 ちまうかのあし軍軍一なるくもあひひて終
 ちけりも皆なびあやぬおちうのあくと御ん所

あつ國々乃兵よとくうらおはせ六合戦ともびくはあり
 ぬ京中一さびくたなりて上皇と彰もも六波羅小
 うはり終る伯耆と軍とけり一のせうはぶあに
 畿内近國も御あり終る一あつるもくく八幡山に陳
 ちあつる坂東よりりのかまう兵乃申あそふの親光と
 ちのものばつりたせうつるあはせよく御がり一乃
 孝はほくめより源高氏ときた一乃
 義家終る二男義國といひ一後胤とありは義國が
 終るも一義氏と平義朝終る外終るも義時と
 か世とよりて源氏乃号あり勇士よはのをお受けし

もやをーまゝめらやうなるー是ハ外孫のま
はるまきく^{ハヤラ}御守侍あらまゝとあまういんうひをまの
代りたりなるまゝくゑさてれくてのこあまうさる氏も
おろしーのせうきなるりううぐひをたかきんた
や告文と書をたたくと進教ー守るはまじと冥見と
もろりんぞんぐりきとく御方りまつる官軍力
をえーまはぬ月八日のひもやあまある東軍これ
御あまきくあはれよんをりて為行ーは西院新帝
おろしーまゝゆちあり也江の國馬場といふと御
て御方り山所ーある御守御守は武士た

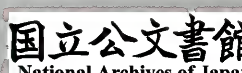
くまゝくもまゝくおろしは自滅ーは西院新帝は於
まゝーなり官軍あまはれまゝりかかくて於よりあ
はれまゝくおろしあまゝりまゝは還幸せま務
まはれまゝりあはれまゝり事にはんまゝも上野の
國り源義貞といふ者ありさる氏く族なり世の乱ま
まはれひあうーいんまゝなるぬ勢あまゝく鎌倉りうち
のぞくまゝりさ時ホ運まゝりまゝり國々の兵つ
まゝりあまゝりまゝりあまゝりあまゝりあまゝり
二十二日まゝりあまゝりあまゝりあまゝりあまゝり
まゝりあまゝりあまゝりあまゝりあまゝりあまゝり

なるとりて後葉の國之隆興出羽乃移くまると同
月子持共向まりにける空子室持同つ耐不ありあ
し耐持つり運乃極るあまうあまうはあそや
不思淺もも侍りてその乳君かくともちるせ給
を極津國西の宮といふあまう極るあまうはあそや
は六月七日在寺りつりせ給ふあまうあまうはあそや
まるとりて威儀をととのへ本持宮り還幸一た
はあまう一々罰のさる先有る一あま院新帝と
なるとりて給ひて都りけりせまるとりてきり
新帝を偽りの後まるとり正位りまるとりけり
給ふ

改元して西葉といひてまるとりて元弘と号せ
給ふ官位昇進せりまるとり元弘元年八月より
是のまるとりあまう有る一平治より後平氏世は
まるとり二十六年文治のまるとりめ持朝持をまるとり
よりの父子あまうはまるとり三十七年承久より一
まるとりあまうはまるとり百十三年まるとり百七十余年の
るあまうあまう世はまるとりまるとりあまうはあそや
此天皇の御代り掌をまるとりまるとりあまうはあそや一統
あまう宗廟乃御まるとりあまうはあそやあまうはあそやと天
下あまうはあそやあまうはあそやあまうはあそやあまうはあそや

十月八日... 奥と... 陸奥... 新羅... 征夷大将軍を

号... 征夷大将軍を... 征夷大将軍を



さるぬをそあまよりある皇恩を事文り忠をいし
勞をばさくぞ理運乃ちさく細とくわそゆる人
ちるる天乃功をぬさるんく已が功とむさるり介子推
いまりめと習ひあるものなりあしそかくくさ成の
一族なりぬ書をもあまの昇進一昇殿とゆるさる
とありさるる或人の中はまし一公家の御せり
くすあまのたむひり申く程茂士此世はあま
とそあまの政道とさるゆゑにさる侍
まはる正直慈恵と本として決断の力有るなり
是天照太神のあまの御を御せり決断少

ちりしとさるあまの御道あり一はさる人をえりひて
官小但どなりしそ人ある所を君は垂拱一はま
まははまの本朝もは吳朝もは是政治世は本とさる
まの國郡をさるるにせむさるるさるる御の
まの御さるる功あるまはは必業一飛たるるを必
得は是善はさるる先をさるる道あり是なり一は
がを乱政とさるり上右にさるる勤功あまのさるる官位を
すしゆのさるりさるはは官位上さるり勤位とい
まの御をさるる一等さるる十二等さるるありは位の人
なりと勤功ぬく一等なりあまの御は正三位乃下位

三位上よりはくふるべしとてんくきく又四位あるの
あきけきあつたあもあつた官位といふる上三公あり
備司の一分なりける是を外官と云天文なりける
地理なりはりてをのくはくさる方あまはそを
くして但用せしめくはくさる名を黒と云ふ
かきふとも云天のはくさる人吾代ともいひくまの
まよりまはくさるを謬奉と云はるるなりける
戸祿といは謬奉と戸祿とは國家のやぶる階
久しうくはくさるを申古と云く平は狩門
ま道村の貴なりてあふれ秀卿正四位下に叙し表

兼下野西國の守領の平の貞感正五位下り叙し
鎮守府の將軍又伊豆安倍氏貞位奥列と云ふ
と源の頼義の朝長十二年まはくさるにめくひく凱旋の
日正四位下り叙し伊予守に伊豆守とて其功たり
いふとも一但てみまの祿なり是を以上右のほま
かろまあり保元乃貴まを義朝左馬政り將し
太宰大貳なり但て此亦受領持統遣使りかき
あり此時やともふんじやるりともまはくさる
平治よりこのく皇威あとのあかりをともはくさる清感
ま下の権をも益と大政大臣なりあがりまはくさる大將なり

かろしうく今さらまたくぬゆまはらまを船歌よるりて
やぐく滅亡せしうたの例にまひあぐしう於朝を更
まて力のかめく平段乃乱とまのつき二十余年の所い
まご御り辱しあをまうしじう神代の所何り宇麻
志麻見命の中列を志はあ由皇極の御宇より大織冠乃
穂高の二門をほろがうして皇祖を侮しきせしより
のらままたくひな御祖の勳功もやとまじしう京市
乃時大納言大御り但せしきしうさうくくいなま
さるはなうしてなまれはなり公祖のつばいも侍り
あんまらうりかまが治るまは大臣大將なりなりて

かろびぬ文り治るつうまのなり天喜よまたなひり
言りいんくまると君もくはまありしとく下免をせ
治りしよありて大功なれまのまもくも皆う侮ごし
と思ひあけり於朝をまの才かまはとく兄才一族を
まもくしうまもくもや義理も位の持北遠使りく
やまの能頼朝が冬河をなりしうま頼朝許の目地
下乃最近より古加くありおるんく言まもやこの
あか波を治りしとまひまのほろしう御親族もあぐ
ほろがたまうしうまおるまらうしうまおせまて世は
久しう家くともまがらんともあるらん先祖

名も滅しまたも終る官へのけり世上下此礼節
 とんぞとちりて維貞といひしもの吹嘘よりりて
 理の天まへなるべしとていふも中言ふが故に
 身もやうくせ侍りあま又祖乃を記しまた
 家門をさしなす事なりとていふも
 なる事や天の道はりしなるが故にけり
 天の正理のまににをたされし事あてまのけり
 事さても人乃善悪にまはるるの果報なり世のやど
 ころを記し時此災難なりとて道と神のけり
 こと事と事とは邪なる事なるといふ事

ぼろびみやまきりう世も正りたるも古今の理なり
 是のゆゑに口をさし人知る以徳をたといふ人さへも
 徳を一日もたえ徳行とばはるは徳のたすけ事
 事用ありとてりあつたる事ありし事事功あり
 とて又徳義法慎公平恪勤の四善とていふも
 又格条より朝より所養たすこととて又公卿といふ
 とるも此徳も徳の用なりとて不次り
 所よりあるなり寛弘よりありしは徳のたすけ事
 事けしは徳のたすけ事なりとて将相なりし人も
 寛弘より徳のたすけ事なりとて事なりとて事なり

神皇正統記卷之六

の地をささげし事のかるりしを國又守る
郡り領あり一國の内みふ命は下みくたはめ
ゆふはえりしむく民なりしを國司の行迹をえ
かく賞符ありしを下のの掌をいへてた
るひやまもりあま中一乃徳院諸官り封あり
王大臣又かくのあま一も外官田職田をくありし
みる官符紙ありて正統とてあまのりて
國を皆國司の吏勢なりし但大功のものと今の國
をもく傳ふがごとく國にいつはるべきはくはく
きり中をとりて國をくくきり不輸乃こころ

いづきしより亂國とてさるり上吉にさしは終りか
り言ふまばよや推古天皇の御時横あは大臣に封
とりもく寺ありとせんと養せしと終りゆふは
光仁の御時永神社佛寺りしもあまの地を
永乃字は一伐りしとありは三聖院乃世
しと此はのをささげしを記録をあるとて國
の彦公孫文書紙ありておろく停廢せしと
白河鳥羽の御時より新立地つとくおろくなめ
國司のしは百よりあまのらさぬも國司は
むくしとてさるりもあまの眼代をり

神皇正統記卷之六

十九

神皇正統記卷六

國成りてありはいつく乱國となりざらんや
文治のりて國守後祿を補一國郷保り
地影とありし一を此くして又右のしんご
ことなり政道成ればみらるるを
あまきりて一統の世りてのねまはしむる
はるるもあつたあまのあまの
あまきりてのゆかり今も本元の
みか勲功り混まきりて累家とほしく
よかめりてあり是れ功りたる
とてさるるふよまきりて皇威といふ
かろくする事とん

えりりかきりては功なりとて
ほひあつて昔は名にあらんたあ
てはるるもあり或る由境なり
國不と名にあらんたり昔は
甲の世の徳をお供はれま
と我らむる事なりとていつく
志くはむるもあやうくなり
傳りたるりてはむらむる王
りて今もまきりて人臣の道
名と名にあらんたりあまの
神皇正統記卷六

神皇正統記卷六

大

神皇正統記卷六

より一と強きあは事こひく貴せし海を君は神政
かり下りてあまひあらし中へ家にあはぬも
海へてさる功なりてさるはちかきひしき
身はくもあやあらしちる事ぶる前車の轍とん系
事さるはこにも有りし事なりしひちる言入り中右
すても人のされを豪強なる紙ひありあらし事さる豪
強りああまははらるすむらむら公あり果して身は
ほろが一家びりしるよあし一は事はいまりあ
はらしを相りたる鳥羽院の神代もや諸國の長士は
海平の家入り承止る事ととびり一とひ割符

あびくありは海平久しく哉ととるまは下
しと事ある時と宣名を給りて徳國はつもの
とたりなり言するより近代とるまはく威がくか
まのるやうむかしくかへしにゆりて此割符へん
は事さるし一し今迄は乱世の基とるまははさる
なれりしにありたり此はのこしづにまはる軍
もあひ或る家の子良は節なり死ねる事とひも
あまはら功なりまはらる日本國は終くまは
事國は終りしとたるづらるるやあらし海こふ
まはらるるまはらるるなまはらるるや

神皇正統記卷六

うりかんごあさうとともがう又朝威のうけ
さとしはうとらあそこのまうり云語を君子に
なをやうりありあうらうはにとる紙をひがう
人うねづう年とあるうづうぬ事にはうと
さうり侍うりうとらうりうとる紙をひがう
いふまうりひたうきは乱に賊子といふまうり
さあふまうり紙はくううらうらうのうらう
申乃おとらうとらうとらう日月の光らうらう
まうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
詩由

まうり帝堯乃國紙はくうらんと有うとらう
拜とあうひま巢父う是紙きうて世紙をまうり
まうりうてはくうまうりまうり五膳六腑のうらう
紙のひたうらうらうらうらうらうらうらう
思ひやまうりあうまうりけき大うらうらう
はくうらうらうらうらうらうらうらうらう
まうりうらうらうらうらうらうらうらうらう
かまうりあう地をまうりうらうらうらうらう
事まうりうらうらうらうらうらうらうらう
まうり十六人まうり梅うがかりうらうらう
那はくうらうらうらうらうらうらうらう

二百九十四郡しそあき六百九十人そよ修うごも
子万人の人そよ修こごりいんや日本は修は修し
皆なふりれそよ帝まをいけくそしそ修のあ
めのかるののきけりいそとだにそ出むとくそ
けりそ修なるあは修叛るそりあそりあきせむり
の将門はは嶽山りのりそく大内をそ見りて修
叛と思ひくらりそく修なるそり修そくひもや修り
きん今まそ人ののりそくのりあそりそり世そ修
そと修なるそりや漢のそ祖そそりそりそり
何張高韓信う力也そ修は三傑とそ修そりそり修
そ修

と傑といのそ修中にそ張良そ修祖そ修師とそり
そ修帷帳の中りそ修りそりそりそりそりそり
決そりそ修人なるそりそりそりそりそりそり
そりそりそり留とそりそりそりそりそりそり
封そりそりそりそりあそり由そ功修そ修そりそり
張高そ修とそ修とそ修そりそりそりそりそりそり
そ修朝の所そ修そ修も文治のそ修りそり奥乃泰衡そ
そ修社そりそり身修そ修とそ修とそ修にそ修重忠
そ修陳そ修そ修功修そ修そ修そ修そ修そ修そ修そ修
そ修そ修そ修そ修そ修そ修そ修そ修そ修そ修そ修

三月二十一日... 官軍又や... 東坂本... 別や... 守鎮守... 貴上... 義... 官軍...

三月二十一日... 胡敵... 兵... 將... 軍... 叙... 陰奥... 太守...

の太守をばしめしむる事なる事なる使らるりありとて
 但しは勸賞ありとてさく日女を所見四成良の
 所子に起す頭家御とてさく愛とてさくけさる
 言ふと我義貞朝臣は執事下ありて播磨乃國
 又お敵の黨類ありとて先是を討治せらるりとて
 日女送すて行りて月女もなりぬさる氏木西園に因
 治をたつてさくひくまひて攻めりて官軍利なく
 毛く朝より帰る事て行りて日二十七回り又山門に
 降参りて六月より海軍もさく合戦ありとて
 友軍もさくまひて依りて朝より元弘の偽を所見あり

三好子豊仁とてさく位なりは事なる十月乃は
 ともさ上朝より出さる所ありとてさく事
 かなさか又行参候にかりとて道ありとて東
 宮に水園より行参あり左傍に待立世に下の人
 左中將義貞朝臣とてさくけさる人ありとてさく
 けさるまはりたりとてさく是れ後さくまひとてさく
 所のともさくもさくためともさく成良の親を東宮より
 ともさく日十二月よりさくのひく朝臣出まひとてさく
 河内社園より正成といひて一族をさくさくて芳
 野よりさくせはひぬけ官をけさるりてさくせたまひ

ちほくくするまきりしを侍るる未儲乃君ははらばら
 せ給ひく例るまのむれ乃侍位君といふもむらじ
 皇太神のまの先中をせ給ひたるなるべし
 へつ方ましくして侍同乃君ましくも位を侍はせ給ひ
 けはいとむ思ひあをせしきくたうとも侍るる那又
 常陸のりともりゆさひ方なまき侍四乃ある書
 あひらくひく義共あうくぬ奥列野列の中
 次於年まきかきく下向くまのく國まつ
 侍りしを初も舊都まら戌寅於年乃冬改え
 て曆應とせしひら芳野の宮まら本於延元乃

なまきは國も思ひくのみ号なりまらうくまら
 きりしむらもまきや此國乃を例なりはまきとま
 せよとかなるぬるまや大日本嶋根まら乃り皇
 内侍不神まらま野乃むらまらまらまらまら
 あらまらまらまら八月の十日あまらむ六日乃や
 秋霧乃あらまらせ給ひくかきまらしくぬま
 せまらまら寝の中なるまら世まらまらぬまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまら
 後もうまらあらまらまらまらまらまらまら
 まら獲麟乃筆まらまらまらまらまらまらまら

代も神皇正統乃まゝ一海方もまゝ一美理りまのて
素意此もあはれはさしはらひてまゝくまゝ
ほもゆるなありてく時をまはるとりしめはりや
前まへの事ことも親しん王わうと曰いはた大后おほのきさき乃のは
はくまゝく三韓さんかんの神器しんきはくしりては乃の是こゝに
のまゝにして後醍醐ごだいご乃の天皇后あまのきさきとよま
二十一年にじゅういちねん乙未おつみ年ねんたすくまむり
龍りゆう宮みやにせりたすまひり行宮ぎやうきやうもく神かみも
まはりしや神功皇太后しんこうこうたうはくまゝく三韓さんかん
皇太子こうたうじ乃の天皇后あまのきさきとよま

御代りしはまゝの此こゝに運いまゝく
百七十余年ひゃくしちじゆねん甲子こうし年ねん一統いつてう乃のま
ては日嗣ひつぎはくまゝく此こゝに運いまゝく
く徳とくもあはれ人ひと世よりたすまゝく
かやう宸襟しんきんをたやまし神世かみよはくまゝく
ゆ事ことも法はふ怨おん念ねん乃の止とむる
神門かみかど又また天照大神あまてらすかみより此こゝに
おまはは此こゝにまゝありてこの正統せいとうも
まのまゝ申まをまをまをくかゝるまゝ
たむりく傳つたへ

○第九十六代孝五十世孫三白皇^{皇孫}諱^諱義良後醍醐^{村上}
 醐の天皇皇弟七乃御子法母を准三宮藤原乃廣^{皇孫}
 子此君^{皇孫}より事^{皇孫}を勤^{皇孫}務^{皇孫}たりんとく^{皇孫}日^{皇孫}成^{皇孫}の事^{皇孫}と
 なん^{皇孫}養^{皇孫}り^{皇孫}ん^{皇孫}中^{皇孫}に^{皇孫}給^{皇孫}ひ^{皇孫}事^{皇孫}を^{皇孫}行^{皇孫}は^{皇孫}あ^{皇孫}ま^{皇孫}り^{皇孫}の
 御子法母より事^{皇孫}を勤^{皇孫}務^{皇孫}たりんとく^{皇孫}日^{皇孫}成^{皇孫}の事^{皇孫}と
 なる^{皇孫}事^{皇孫}の^{皇孫}く^{皇孫}を^{皇孫}給^{皇孫}ひ^{皇孫}一^{皇孫}元^{皇孫}弘^{皇孫}發^{皇孫}圖^{皇孫}乃^{皇孫}と^{皇孫}東^{皇孫}北^{皇孫}
 陸奥出羽の^{皇孫}く^{皇孫}を^{皇孫}給^{皇孫}ひ^{皇孫}一^{皇孫}元^{皇孫}弘^{皇孫}發^{皇孫}圖^{皇孫}乃^{皇孫}と^{皇孫}東^{皇孫}北^{皇孫}
 夏之親王丙子法母^{皇孫}の^{皇孫}く^{皇孫}を^{皇孫}給^{皇孫}ひ^{皇孫}一^{皇孫}元^{皇孫}弘^{皇孫}發^{皇孫}圖^{皇孫}乃^{皇孫}と^{皇孫}東^{皇孫}北^{皇孫}
 内裏^{皇孫}め^{皇孫}く^{皇孫}御^{皇孫}元^{皇孫}服^{皇孫}加^{皇孫}冠^{皇孫}を^{皇孫}た^{皇孫}た^{皇孫}乃^{皇孫}大^{皇孫}臣^{皇孫}なり^{皇孫}す^{皇孫}れ^{皇孫}を^{皇孫}ら^{皇孫}
 三^{皇孫}原^{皇孫}の^{皇孫}叙^{皇孫}一^{皇孫}陸^{皇孫}奥^{皇孫}の^{皇孫}太^{皇孫}守^{皇孫}なり^{皇孫}但^{皇孫}せ^{皇孫}は^{皇孫}勤^{皇孫}務^{皇孫}乃^{皇孫}日^{皇孫}下^{皇孫}

丙戌寅の^{皇孫}と^{皇孫}一^{皇孫}孫^{皇孫}喜^{皇孫}又^{皇孫}よ^{皇孫}く^{皇孫}勤^{皇孫}務^{皇孫}たり^{皇孫}んと^{皇孫}く^{皇孫}美^{皇孫}野^{皇孫}の^{皇孫}宮^{皇孫}子^{皇孫}
 ま^{皇孫}し^{皇孫}く^{皇孫}ま^{皇孫}の^{皇孫}秋^{皇孫}七^{皇孫}月^{皇孫}侍^{皇孫}候^{皇孫}なり^{皇孫}勤^{皇孫}務^{皇孫}を^{皇孫}た^{皇孫}ま^{皇孫}あ^{皇孫}ら^{皇孫}せ^{皇孫}て^{皇孫}
 東^{皇孫}征^{皇孫}あり^{皇孫}一^{皇孫}か^{皇孫}や^{皇孫}ら^{皇孫}び^{皇孫}せ^{皇孫}ま^{皇孫}く^{皇孫}り^{皇孫}ま^{皇孫}し^{皇孫}は^{皇孫}ら^{皇孫}れ^{皇孫}と^{皇孫}の
 卯^{皇孫}の^{皇孫}年^{皇孫}三^{皇孫}月^{皇孫}又^{皇孫}美^{皇孫}野^{皇孫}へ^{皇孫}い^{皇孫}く^{皇孫}勤^{皇孫}務^{皇孫}を^{皇孫}ま^{皇孫}あ^{皇孫}ら^{皇孫}せ^{皇孫}て^{皇孫}秋^{皇孫}八^{皇孫}月^{皇孫}申^{皇孫}れ^{皇孫}
 又^{皇孫}日^{皇孫}成^{皇孫}の^{皇孫}事^{皇孫}を^{皇孫}勤^{皇孫}務^{皇孫}たり^{皇孫}と^{皇孫}く^{皇孫}美^{皇孫}野^{皇孫}の^{皇孫}宮^{皇孫}子^{皇孫}
 又^{皇孫}日^{皇孫}成^{皇孫}の^{皇孫}事^{皇孫}を^{皇孫}勤^{皇孫}務^{皇孫}たり^{皇孫}と^{皇孫}く^{皇孫}美^{皇孫}野^{皇孫}の^{皇孫}宮^{皇孫}子^{皇孫}

東征後醍醐天皇

麻里子糸青糸糸

慶安貳曆仲春

風月宗知刊行

